



保医発1031第5号  
平成23年10月31日

地方厚生(支)局医療課長  
都道府県民生主管部(局)  
国民健康保険主管課(部)長  
都道府県後期高齢者医療主管部(局)  
後期高齢者医療主管課(部)長

殿

厚生労働省保険局医療課長

厚生労働省保険局歯科医療管理官

### 検査料の点数の取扱いについて

標記について、「診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について」(平成22年3月5日保医発0305第1号)の一部を下記のとおり改正し、平成23年11月1日から適用するので、貴管下の保険医療機関、審査支払機関等に対して周知徹底を図られたい。

### 記

別添1第2章第3部第1節第1款D012(33)のイを次のように改める。

イ 次のいずれかの場合に算定する。

- (イ) 喀痰又は上咽頭ぬぐいを検体として、イムノクロマト法により、肺炎又は下気道感染症の診断に用いた場合
- (ロ) イムノクロマト法により、中耳炎及び副鼻腔炎の診断に用いた場合

(参考：新旧対照表)

◎「診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について」(平成22年3月5日付け保医発0305第1号)

改正後	現 行
<p>別添1</p> <p>医科診療報酬点数表に関する事項</p> <p>第2章 特掲診療料</p> <p>第3部 検査</p> <p>D012 感染症免疫学的検査</p> <p>(1)～(32) (略)</p> <p>(33) 肺炎球菌細胞壁抗原(定性)</p> <p>ア 肺炎球菌細胞壁抗原(定性)は、「23」の尿中肺炎球菌莢膜抗原に準じて算定する。</p> <p><u>イ 次のいずれかの場合に算定する。</u></p> <p><u>(イ) 喀痰又は上咽頭ぬぐいを検体として、</u> <u>免疫クロマト法により、肺炎又は下</u> <u>気道感染症の診断に用いた場合</u></p> <p><u>(ロ) 免疫クロマト法により、中耳炎及び</u> <u>副鼻腔炎の診断に用いた場合</u></p> <p>ウ 尿中肺炎球菌莢膜抗原と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。</p> <p>(34)～(44) (略)</p>	<p>別添1</p> <p>医科診療報酬点数表に関する事項</p> <p>第2章 特掲診療料</p> <p>第3部 検査</p> <p>D012 感染症免疫学的検査</p> <p>(1)～(32) (略)</p> <p>(33) 肺炎球菌細胞壁抗原(定性)</p> <p>ア 肺炎球菌細胞壁抗原(定性)は、「23」の尿中肺炎球菌莢膜抗原に準じて算定する。</p> <p><u>イ 喀痰又は上咽頭ぬぐいを検体として、免疫クロ</u> <u>マト法により、肺炎又は下気道感染症の診断を用</u> <u>いた場合に算定する。</u></p> <p>ウ 尿中肺炎球菌莢膜抗原と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。</p> <p>(34)～(44) (略)</p>